



珈琲豆焙煎所



会員事業者に聞く

会議所活用事例



CAPIME coffee

代表者：亀谷 千晴

所在地：山口市大内間田3-2-41

TEL：083-929-3342

HP：<https://www.capime-coffee.com/>

事業内容：珈琲豆（自家焙煎）・オリジナル珈琲道具の販売

活用した制度 小規模事業者持続化補助金、IT・デジタル導入相談会

■こだわりの自家焙煎珈琲豆

「何かを考える」「ふっと休憩する」「本を読むなど好きなことをする」そのような時間を過ごすときの片手には「珈琲が子供」という方はきっと多い。一杯の珈琲には生活を豊かにする力がある—そんな思いから2008年、「CAPIME coffee」（カピコーヒー）を創業しました。

創業当時は、ネット販売を主力として、出張喫茶や珈琲教室開催などの活動を行っていました。“直接珈琲を買いたい”という声を多くいただくようになり、2013年に山口市大内に実店舗「珈琲豆御渡所^{かひ}“龜”」を開店しました。自家焙煎珈琲豆とさまざまな分野における作家や職人たちとオリジナルの珈琲道具を制作し販売をしています。



けることができるようになりました。さらにオリジナル商品の開発に充てる時間が確保でき、販売まで流れも丁寧に進められました。

一方で、店舗運営にかかる事務的な時間が増えたため、とくに会計処理の負担軽減ができないか、事務作業—特に会計処理—の負担を減らすためにクラウド会計の導入も視野に入れつつ思案に暮れていたところ、「ITデジタル導入相談会」があることを知りました。専門家である伊藤中小企業診断士に相談し、実店舗にエアレジを導入しました。キャッシュレス決済やインターネットバンキングのデータ、そしてネット販売サイト等をクラウド会計と連携することで、効率化を図っているところ です。取り扱っている商品に、消費税軽減税率の8%や10%の商品が混在しているため、会計処理の効率化が図れると大変助かります。

■補助金への挑戦と無料相談会の活用

全国紙・地方紙の雑誌取材やコロナ禍での巣ごもり需要もあり、少しずつ取引先・お客様が増えました。うれしい反面、当時の焙煎機の容量でご注文の量をこなしていくことが難しくなり、大容量の焙煎機の導入を考えていたところ、知人から「小規模事業者持続化補助金」と「ものづくり補助金」という補助金があることを知りました。直接焙煎機の購入に補助金を充てた訳ではありませんが、今後の事業の展開を改めて考えるうえで、補助金申請のための経営計画を作成することは非常にためになったように思います。

大容量の焙煎機を導入した後、生産効率が高まり、より多くの方に焙煎豆を届



■できた時間で見据える未来

補助金への挑戦とクラウド会計の導入に伴い、まず第一歩として、お客様よりご要望の多かった「水出珈琲」を新商品として販売できるようにチャレンジしました。生産効率が上がったおかげで、幾度の試作焙煎に費やす時間も十分に持つことができ、納得の「水出珈琲」を完成させることができました。そして、今現在は新たなオリジナルの珈琲道具製作に挑んでいます。またこの機会に新しくスタッフを迎えて少しずつ仕事を教えながら分業をすることで、更なる作業効率アップを目指しているところ です。以前は仕事の時間でいっぱいだったのですが、今は少しずつ自分の時間と家族と向き合う時間にゆとりが見え始めています。このゆとりの時間を持つことが、より良い珈琲豆、商品づくりに繋がると実感しています。

